

令和3年度 上田市立北小学校 学校自己評価(最終評価) 評価=A:できている B:だいたいできている C:あまりできていない D:全くできていない

学校教育目標		総合評価		
<p>「花とみどりと笑顔の学校」 ～あふれるあいさつ かよいあう心～</p> <p>10年後、20年後に大輪の花を咲かせるための今の創造 「今の努力が未来に続く、今を精一杯」</p>		<p>○学校長の「『笑顔』を広げるためにあいさつを大切にしよう」との投げかけにより、職員・児童（特に高学年）が意識してあいさつを行ったことにより、学校にあいさつが響き、笑顔も広がってきている。</p> <p>○今年度もコロナ禍で制約の多いなかではあったが、昨年度の経験を活かして活動の内容や行い方をさらに工夫して、子どもたちが友だちや地域の方々とかかわり合う活動や発表の場を位置づけ取り組むことができ、心を通い合わせることができた。</p>		
今年度の重点目標		成果と課題	評価	改善策・向上策
<p>よくふれあい…「友だちをいっぱいつろう」 「一日に何度もあいさつをしよう」</p> <p>・教師は、子どもが他者とつながることや子ども同士がかかわり合うことをサポートし、人に対する愛着心を育むことができたか。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつが広がっている。子どもたち同士がかかわる活動も昨年以上にすることができた。特に、地域講師によるクラブ活動を復活できたことが大きかった。 ・生活科・総合的な学習の時間などの学習の中で地域の方とかかわり合う活動が複数行われた。 ・コミュニティルームを開設し教職大学院生の職員が中心になって多くの講座を行ったことで、地域の様々な方が頻繁に来校されるようになり子どもたちと触れ合う場面もあった。しかし、「かかわり合う」までには至っていない。かかわり合える場や活動を考えたい。また、持続可能なものとしていけるよう、担当職員だけでなく、学校全体でかわっていく運営の仕方を考える必要がある。 ・2年連続で実現できなかった職場体験学習を来年度こそは復活させたい。そのための準備をさらに進める必要がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティルームにかかわる担当職員を複数配置し、活動について職員会議で共有し、学年会にも反映できるようにする。その上で、コミュニティスクールについて学校運営委員会で熟議をし、活動につなげていけるようにする。 ○北小応援団総会で地域の方々と教職員との交流を図り、願いを共有できるようにする。 ○職場体験学習受け入れ先との連絡を1学期の早い時期から始めオンラインによる学習など警戒レベルが上がった場合の行い方についても相談し準備を行う。
<p>よく学び…「じっくり考えよう」</p> <p>・教師は、子どもの『問い』を真ん中にすえた授業を行い、子どものやる気を引き出し、創造の芽を芽生えさせることができたか。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・重点研究の3部会を中心に授業改善に向けた実践研究を進めることで、職員の中に『問い』という言葉が浸透し、子どもの意識の流れを大切にする授業づくりを工夫しようという意識が広がった。しかし、保護者・児童アンケート結果からはまだまだ不十分さも感じられる。日常の授業につながるよう、取り組みを継続させる必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○3部会での研究をもにした日常的な授業公開を行い、授業改善につなげる。そのために、部会内公開や学年内公開、部分公開など、行い方を工夫して学び合っていけるようにする。
<p>よく遊ぶ…「たくさん遊ぼう」</p> <p>・教師は、遊びの時間を大切にしたい働きかけをし、遊びを通して子どもたちの意欲や主体的に活動する力を育むことができたか。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちはよく遊んでいるが、教師も共に遊び、子どもの活力を引き出すというところまでは至っていない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○思い思いの遊びを大切にするために、「ハッピータイム」を継続する。外遊びを奨励する。

領域	重点	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
学校教育	よくふれあい	地域の様々な方々とかかわり合う場の確保	外部講師とかかわるクラブ活動・職業体験学習・北小応援団と連携した活動・放課後学習を積極的に行い、地域のもてる力を有効活用している。	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師によるクラブ活動を再開することができた。地域ボランティアによる読み聞かせも、ほぼ予定どおりやっていた。また、フラワーロードの花壇づくりで地域の方々とかかわることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学習ボランティアをお願いすることを考える。そのために、できる時にできる範囲で日常的に学習ボランティアに入っただけよう、各クラスの

学 校 教 育	よ く ふ れ あ い			<ul style="list-style-type: none"> ・2年生は地域連携コーディネーターや地域の商店の方などにお世話になったりかわり合ったりする活動を行うことができた。3年生も地域の果樹園の方に学ぶ学習を行った。コロナ禍の中でできることを工夫して活動を充実させることができた。 ・5,6年生の職場体験学習準備を整えたものの、その後の感染レベルの上昇により今年度も実施できなかった。来年度は復活させたい。 		<p>要望に応じたボランティアの依頼の仕方を工夫する。また、放課後学習の実施も考える。コミュニティルームの活動とのタイアップを工夫する。</p> <p>○職場体験学習受け入れ先との連絡を1学期の早い時期から始める。</p>	
		学年の枠を超えて友だちと交流する場の保証	学年内やペア学級で友だちとふれあう活動・子どもたちのアイデアを生かした児童会活動を通して、互いに高め合う活動を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・「遊びの広場」という新しい取り組みを行った。6年生を中心に全校で楽しむ時間となった。 ・ペア学年・学級との交流も行われた。児童会を中心にさらにペア学年・学級での活動を増やしたい。 ・ハッピータイムでも学年を超えて遊ぶ姿が多く見られた。 	A	○感染状況をみながら、ペア学年・学級での活動を、児童会活動と結びつけて行う場を工夫する。	
	よ く 学 び	子どもたちの『問い』を真ん中にすえた授業の創造	以下5点を大切に授業を行うようにしている。 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの「願い」や「疑問」をもとにした学習問題を設定する ・追究の見通しから課題を明確にできる場を設定する ・追究時間の保障と個々のつまずきに応じた支援をする ・追究結果を交流する場の設定と学習問題と照らしまとめをする ・自他の高まりを認め合う全体評価の場を設定する 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数・外国語・人権教育を中心に子どもたちの『問い』を真ん中にすえる授業を工夫し、研究授業にも取り組んだ。子どもの「願い」や「疑問」をもとにした学習問題を設定する学習のあり方について、研究を深めることができた。日々の授業・他教科に活かしていくことを継続的にやりたい。 ・高学年の算数ではコース別学習を取り入れ、自分に合ったペースで学習を進められるようにした。やる気や関心、思考力が高まった。 ・子どもたち自らが問いをもち、考え深めていく学習のための支援をさらに研究していく必要がある。重点の3教科を中心に取り組んでいるが、アンケート結果からはまだまだ不十分さが感じられる。 	B	○国語、生活・総合、体育の3部会を立ち上げ、『問い』をもって学び進める子どもの育成を目指して、今年度の研究を土台にさらに子どもの『問い』を真ん中に据えた授業について研究を進める。	
		生活科・総合的な学習の時間の充実	子どもの「願い」をもとにした活動を構想し、探求的な学びを支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・お化け屋敷をつくる活動や池を復活させる活動など、子どもの「願い」をもとにした活動も見られたが、Chromebook活用に時間を要し、全体としては創造的な活動が活発に行われるまでには至っていない。 	B	○重点研究の一つとして位置づける。実践的な研究を行い、お互いの取り組みについて見合ったり情報交換し合ったりすることを行う。	
		算数・外国語・人権教育を中心とした授業改善	研究授業や授業を見合う活動を通して実践的な授業研究を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開が数多くされ、授業改善につながっている。 	B+	○3部会を中心に、日常的な授業公開を行う。	
	よ く 遊 ぶ	「ハッピータイム」(外遊びの日)の位置づけの継続充実と遊びの時間の確保	子どもと一緒に外遊びを楽しんだり、子どもが外遊びに進んで取り組めるよう働きかけたりしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年を中心に教師も子どもと共に遊びを楽しんだ。しかし、多忙さのなか、なかなか子どもと一緒に遊ぶことができない現状もある。 	B	○子どもと向き合う時間を生み出すために、会合の精選や時短で行う工夫をさらに進めていく。	
		「朝の学級活動」の位置づけの継続	子どもが考える遊びの時間を確保し、自主性を育てている。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナによる制限もあり不十分なところもあるが、各クラス工夫した活動が行われた。 	B+	○工夫した取り組みについての情報交換の場を設ける。	
	学 校 運 営	保 護 者 ・ 地 域 と の 連 携	情報の発信	教育方針・取組やその成果・連絡など、必要な情報を定期的に発信している。	<ul style="list-style-type: none"> ・学年だよりは毎週、学級・学校だよりも数多く発行することができた。HPをもっと充実させたい。 	B	○HPへの掲載をよりタイムリーにこまめに行う。
			P T A・ボランティアとの連携	P T Aやボランティアとの連携を十分行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・メール・オンライン会議など、連携をこまめに行った。 	B+	○地域の方とのメールでの連絡体制をさらに整える。
			家庭学習の充実	「紡ぐ」を活用し、家庭学習の習慣化や学習内容の定着・意欲の向上を図る働きかけをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習は、学年に応じて自己課題に取り組む内容も取り入れて行った。 ・「紡ぐ」の使用は検討が必要。 	B	○Chromebook活用も研究し、学年に応じた内容で導入していく。